

JR 朝霧駅 歩道橋事故はなぜ起きたか

2001.07.25.

三橋 寛治

7/21 に起きた歩道橋事故の原因について、色々報道されている。

しかし、より根本的な原因は別のところにあると思っている。

私たち家族は、その歩道橋を歩いて大蔵海岸に出たが、そのときあまりにも危険を感じたので、帰りは遠回りして別の陸橋を歩いて帰った。帰るとき歩道橋を見上げると、歩道橋の透明の側壁に人々がびっしり引っ付いていて、満員電車のぎゅうぎゅう詰め状態になっており、まったく動いていなかった。その時間帯が丁度事故が起こっていた頃だったろう。

原因は色々あるが、歩道橋の人達が掃けなかったことが主因であろうと思っている。

大蔵海岸は、朝霧駅南側から明石駅南側にかけて造られた長さ約 2 km のかなり大きな遊び場である。この歩道橋は大蔵海岸の東端に架かっている。砂浜はゆったりとしていて大勢の人達を吸収できる。毎年、花火大会は海岸の西寄りで行なわれており、人々は広い海岸に分散して楽しむことができた。しかし、今回は海岸の東端で花火が打ち上げられた。そこはほとんど歩道橋を降りたところの正面南側に当たるところだった。

花火は、19:45 から始まる。私たちが歩道橋を渡り始めたのは 19:30 頃。歩道橋の上で花火が始まり、対岸についたのは 20:05 頃だった。

近くに住む私たちは、何とか歩道橋を渡ればあの広い砂浜に出れると思っていた。そして、なぜこんなに少しずつしか進まないのだろうと不審に思っていた。ところが、やっと歩道橋を降り、砂浜に降りてみてその原因がわかった。南側に広がる広い砂浜には柵がしてあり、立ち入り禁止になっていた。花火の火の粉を警戒したのか、水辺での事故を警戒したのか 自由に動ける広場はほんのわずかしかなかった。その狭い広場にはすでに人々が座り込んではいり込む余地はない。その上、歩道橋の周りにはあまりにも多くの夜店が建ち並んでいて、歩道橋を降りても行くところがないのだ。そこからは花火を見るにも夜店が邪魔になって夜店の間から覗き見るしかないのだ。東端はフェンスで囲まれており、それ以上は東に行けない。陸地側(北側)も国道の歩道に出るのを警戒して柵が張り巡らされている。西側の明石方面からは間近に花火を見ようと続々と人々が押し寄せる。人々は袋小路に閉じ込められていたのだ。

歩道橋の南側欄干の上で花火を楽しもうと動かない人達もいた。歩道橋の階段に立ち止まって少しでも高いところから花火を見ようとしている？人もいた。花火が始まると早く砂浜に出たい人達で一層膨れ上がった。その上、逆に駅のほうに向かおうとする人達もいて彼らはまるで突撃隊のように体を預けて突進してきた。(こうしなければ進めなかっただろう) これらはすべて人の流れを悪くした。また、歩道橋の構造として、その階段が直角方向についていることも流れを阻害した。階段への曲がり角の内側は修羅場のように特にきつかった。(この曲がり角で事故が起こっている) 歩道橋には警備員が 4 人ほどいたが拡声器を持っていなかったので肉声ではほとんど聞こえなかった。階段でもし誰かが倒れたら将棋倒しになるだろうと恐怖感が走った。

私たちは遠回りをして別の陸橋を通り朝霧駅に戻った。遠方からきた人達は遠回りの方法を知らないで、駅に行くにはこの歩道橋しか考えられなかっただろう。拡声器を使って強制的な案内をすべきだ。歩道橋の入場制限もすべきだ。ロープを使って双方向の道を確保すべきだ。

だが、一番は、歩道橋の階段を下りたところに**立ち止まらない広場**を確保することだ。

密集していた夜店のプロパンがもし爆発していたら歩道橋事故どころではない。

歩道橋事故は、花火大会全体感への欠如によるものと思う。花火打ち上げ場所の選定への検討、夜店の店舗数と開店を許可すべき場所への配慮、柵のない見物場所への配慮などが欠けていた。大蔵海岸の広さを有効に活用して、見物者の立場にたった花火大会が望まれる。

以上